

令和5年度鹿児島学習定着度調査結果《速報》

鹿児島市立武中学校

令和6年2月8日現在

【1年生】	国語	社会	数学	理科	英語
武中	75.6	62.3	74.1	70.7	81
県平均	75.9	54.4	74.3	66.3	77

【2年生】	国語	社会	数学	理科	英語
武中	67.5	54.2	63.5	66.1	69.5
県平均	65.6	62.3	68.8	66.9	71.4

		主な課題	改善策
1 年	国語	・誤答率の高い問題は、語句の意味や古典の理解など「知識理解」の分野と条件作文である。	・定着のために小テストや反復練習など復習の場を増やす。こまめに意見文や生活文を書かせ、書くことへの抵抗をなくす。
	社会	・複数の地図の見方の正答率が低い。古代の歴史や文化史の正答率が低い。	・様々な地図の見方を復習する。古代史や文化史の振り返りをする。
	数学	・データの活用や平面図形の利用など活用の分野の正答率が低かった。	・基本問題だけでなく、活用の問題を取り入れる場面を増やし、定着度を高める。
	理科	・基本的な問題は概ねできていたが、資料を読み取って考える問題や発展的な問題ができていなかった。	・課題設定の工夫。 ・問題集やnavimaなどの効果的な活用。 ・学び合いの時間の設定。
	英語	・文章を書くこと（自己紹介・疑問文を作る）になると諦めて無回答になる生徒がいる。	・何度も練習しているところなので、間違っても良いからチャレンジしようという気持ちを持たせる。パターンプラクティスを増やす。
2 年	国語	・行書の特徴の問題や古文の文意を捉える問題の正答率が低い。読むことが高く、話すこと・聞くことが低い。	・行書や古文の学習時期に限らず、反復演習に取り組ませる。 ・活用力プリントを課題に出して取り組ませる。
	社会	・記述問題と資料を読み取る問題の正答率が低い。	・日頃から文章で書く問題の練習や資料の読みとりの練習を行う。
	数学	・平面図形の作図や数と式の証明の正答率が低かった。	・基本の計算問題を繰り返し練習するとともに、作図や長い説明文がある問題にも対応できるように練習する。
	理科	・実験結果から考察する問題や資料を読み取る問題、基本的な用語や意味を答える問題の正答率が低かった。	・問題集やnavimaなどを活用して定着させる。 ・授業の際、振り返りを行い、基本的用語を定着させる。
	英語	・問題の指示の内容をよく理解していないまま、答えている生徒がいる。 ・writingでは、指定語数未滿で答えている生徒がいる。 ・文脈に合わせて、与えられた動詞1語を用いて空欄に適する語句を答える問題ができていない。 (例：use → We/I usedと答える問題)	・定期テストで10～15語程度の語数指定のあるwriting問題を出題する。 ・パターンプラクティスを増やす。